

[COMMUNION]

WEB:<http://www.nskk.org/tokyo/index.html>
E-mail:comm.tko@nskk.org
PHONE:03-3433-0987
FAX:03-3433-8678
Diocese Office



第44号
(通巻1279号)
2018年5月20日
編集：広報委員会
委員長：渡辺康弘
日本聖公会東京教区
港区芝公園 3-6-18



受苦日礼拝 3月30日



洗足式 3月29日
立教学院諸聖徒礼拝堂



洗足式 3月29日
神田キリスト教会



第131(臨時)教区会・主教選挙 3月21日



司祭按手の約束の更新 3月29日



信徒奉事者祝福式 4月21日



神田キリスト教会



東京聖テモテ教会

イースターヴィジル(復活のろうそくの祝別) 3月31日



SS懇談会(目白聖公会) 4月14日



下町ファミリーピクニック(葛西臨海公園) 4月28日

信徒座談会 み言葉の礼拝を豊かに

「み言葉の礼拝」については、まだまだ消極的に捉えている教会が多いようです。今回、み言葉の礼拝をおこなっている教会から、飯塚哲二さん（東京聖テモテ教会）、平松恵子さん（葛飾茨十字教会）、山本克彦さん（東京聖十字教会）にお集まりいただき、広報委員（渡辺、前島、八木、太田、稲垣、宮崎）も参加して、自由に語っていただきました。

渡辺 今日はお集まりいただきましてありがとうございます。昨年のコミュニオンでは牧師の視点から市原司祭にみ言葉の礼拝について語っていただきましたが、今回は実際に行っている信徒の立場から「聖餐式とは違う良い点や豊かさ」やおこなって気が付いた点などを自由に話し合っていたらいいと思います。

飯塚 私は一番良い点は勧話で信徒がみ言葉について自分の言葉で自分の考えで話ができることだと思います。でもそこがネックだという方もいらっしゃいます。

渡辺 今までお話しをするという経験が信徒にはあまり無かったので、ハードルが高く感じるのかもしれないですね。

平松 私はクリスチャンにとって聖餐式という形式の面と、聖書を読んで感じる感性の面があると思います。聖餐式に偏ることなくみ言葉を聴くことはとても大切なことです。しかし私はみ言葉を自分なりに解釈して話をするということではなく、元々の朝の礼拝を発展させて、もつ



と自由にもっと豊かなものにしていうことでできたのが、み言葉の礼拝の式文だと考えています。ですから実際に信徒が一つ一つの礼拝を仕切るという点が大切だと思います。もちろん勧話の部分では「うまくできない」と言ってしまうのは、私には関係ないということも聞いていますが、私の教会に関してはお願いして断られたことが無いのです。積極的に皆さんが自分の考えや意見を述べてくださるのでその点では楽な教会だと思います。

渡辺 それは珍しい教会ですね。
平松 自身は聖書をもっと深く学びたいという気持ちがあるので、しっかりと勉強してみ言葉の礼拝でお話をするということが大切だと思います。

山本 私の教会でみ言葉の礼拝を取り入れた時には、分かち合いの部分は司祭が用意した説教を読んでいた。司祭がいらっしゃらなくなった後は黙想の時間としています。私はこの黙想の時間が好きなのですが、信徒の出席数はみ言葉の礼拝の時は半減します。しかし先ほどの「断られたことはない」というお話を励みに、諸教会の勧話の時間の様々な工夫を、聖十字の方々に話してみようと思います。

渡辺 黙想の時間というのも、とても良いかもしれませんね。
山本 聖餐式では礼拝の中で止まっている時間はなかなかありませんが、み言葉の礼拝の中で黙想を例えば3分間でもするというのはとても豊かな時間だと思います。

前島 勧話の内容はその時の聖書の箇所からですか、関係ない場合のことが多いですか。
聖書からの話となると勉強している方ではないとなかなか出来ないように思うのですが。しかし何でも話せばいいというものでもないし、皆さんが聴きになつて「あつなるほど」と思えるような内容ですか。

前島 そう、信徒が司祭と同じようなことをする必要はないですよ。むしろ自分の身近な問題と聖書が結び付けば聴き応えのあるお話しになるし、それを聴いた信徒が共感を持てば、そこからまた話が豊かに広がっていくような気がします。

八木 信徒がお話しをするのが嫌だというのは、自分が司式するのが嫌なのか、み言葉の礼拝自体が嫌なのかわからないです。

渡辺 自分がお話しするのが嫌だという人が多いでしょうね。もちろん絶対聖餐を受けたという人は他の教会に行くでしょうし、み言葉の礼拝では嫌だという人は教会に来ない人が多い。ただお話しを豊かにするためにいろんな工夫ができると思います。

稲垣 私が担当した時の福音書は苦手なヨハネ福音書からでした。困っているいる考えました。当日の箇所は「サマリヤの女」の話でした。そこで鶴岡弁（東北弁の一つ）を話せる女性の信徒さんがいらつしやつたので山浦玄嗣さんのケセン語訳聖書を使って芝居風してみました。練習のために3人で集まって実際にやってみると、聖書に書いてあるいろいろな細かい情景や状況が理解できたし、私としては非常に良かったですね。今ではヨハネ福音書在りき、になってしまいましたよ。これもみ言葉の礼拝のお陰かと。

前島 それはどのような選曲ですか。
飯塚 その時はバッハの曲でしたが、出ればその時のメッセージに沿うようなものをとオルガニストの方に選んでいただき、解説を交えて3曲ほど演奏していただきました。
稲垣 説教ではない魅力みたいなものができるんですね。
飯塚 工夫や準備や礼拝全体をトータルでコーディネートすることによっていろいろな可能性が生まれます。
前島 より深く自分が礼拝に参画している感覚にもなりますね。
渡辺 多分、牧師の説教を聞いてそれを知り過ぎて覚えていることはなかなか無いのですが、自分で話したことは忘れません。一年に一度でもいいからみ言葉と対峙して格闘する時間があるというのは自分の信仰にとってもどれだけプラスになるのかと思います。

前島 逃げてばかりではダメですね。
稲垣 み言葉の礼拝の雰囲気作りも大事だと思います。ご年配の信徒の方が司式のやり方を丁寧に学んでいらつしやる様子を見て私は非常に感激しました。みんな教会を支え、礼拝を作り上げている雰囲気があると「じゃ私もやろう」という意識が高まると思います。
渡辺 み言葉の礼拝だと信徒の数が少なくなるということですが、信徒が守る礼拝ですから、むしろその日こそ信徒が来なくてはいけません。



飯塚 信徒でみ言葉の礼拝を守ることによって、
ただ一方で昔からの信徒の中には羽織を着て居ずまいを正して聖餐や説教に与ってきただという方もあります。そのお気持ちはしっかり守って大切にしながら礼拝を作ることが出来るかが私の中では大きな課題です。
稲垣 確かに聖餐を受けなければ礼拝

くのは難しいですね。
前島 本来はもっと豊かな礼拝になるはずなんです、でも実際はなっていないというのはどうしてなのでしょう。

飯塚 聖テモテ教会では導入の前に3回勉強会を持ちました。最初に司祭から、み言葉の礼拝とはこういうものだという話があり、実際に式文を読んでやってみました。その後も信徒みんなで、ことあるごとに話して改良しています。例えば「み言葉」を中心にするんだから説教台を聖壇から下に降ろして、全部前向きになっている会衆席を説教台を囲むように配置を変えて、勧話をする人は会衆席から立ちあがり会衆の中からみ言葉が出てくるといったようなアイデアや提案が信徒から出てきます。

前島 視覚的に実感できる工夫をされて、ポジティブにやられていますね。

飯塚 むしろ司祭がない時、どれだけ出来るかがその教会の本当の力なんだと思います。

八木 でも、コーディネートする中心となる人は必要ですよ。

平松 確かに、私は信徒奉事者になったので中心に関わるようになりました。

飯塚 聖テモテ教会の場合は教会委員が12人いるので、月に1回の当番を教会委員会で決めていきます。その方が自分で話してもいいし、オルガン委員の方が当番ならオルガンメディテーションでもいい

し、他の教会の方を招いて話してもらってもいいし、信徒の方の中から話す方をお願いしてもいいし、当番がコーディネートするようにしています。

平松 あまり急激な変化を求めない方もいらっしゃるのですがその辺りの兼ね合いは難しいですね。でも少しずつでも変えていかないと旧態依然としていてもダメですから、ある程度の不満や批判は受け止めながら進んでいかなくてはなりませんね。

太田 確かに礼拝は毎回イエスのミニ・ヒストリーを再現しているわけですから、そこは崩せません。
平松 しかし、まだまだ保守的な聖公会が、み言葉



の礼拝についてこれだけ信徒が自由な発想をする機会を与えたのは進歩ではないでしょうか。

稲垣 東京教区の中でも特に大きな教会ではみ言葉の礼拝をしない教会がありますが、私は「かわいそうだなあ、こんなに豊かな礼拝なのだから、みんなやるようにしたいのに」と思うことがあります。

シリーズ 宣教への取り組み(特別編)

『在』に生かされて 名古屋の小さな教会の試み

名古屋聖ヨハネ教会「サマリアハウス」

代表 清 公一

名古屋聖ヨハネ教会の地域諸事業をまとめて「サマリアハウス」といいます。ここにお伝えする楽しい諸活動は14年前発足した「ヨハネ書道入門教室」での交わりから生み出されてきました。

今、平日の教会はとても賑やかで、隔週水曜日の「ヨハネいきいきサロン」には地域の方がたくさん出入りなさいます。8年前、このサロン開設の案に教会のメンバーは尻込みしていましたが、近所の女性たちの意欲が並みではありませんが、それではとスタートすることにしてみると、「こんな出来合いの弁当では納得できない！私たちがやります！」と逆に教会のメンバーが励まされました。現在スタッフは12名ほど。ニッ

クネーム「アトム」さん始め、推進力のほとんどは地域の女性方です。今ではサロンは皆さん自身の居場所になっていて、キッチンでの大元氣・大笑いは安らぎにもなり「楽しいー楽しいー」と続いています。また、司祭が居合わせた折りに自然に「祝福」を受けておられるような雰囲気もあります。

毎回スタッフの手作りランチを380円提供しています。とても好評で利用



が増え、17年には総計千食を超えています。利用は予約不要でその日の出入は自由

縛りはなくて過ごし方も自由です。地域の皆さん30名ほどが利用なさいます。歩いていらつしやるご近所の方ばかりです。杖を頼りの方、耳の遠い方、一人暮らしの方、病をかかえながらの方、お連れ合いを亡くされて閉じこもりがちの方、仕事途中のヘルパーさん、転居してきてここが頼りの方、いわゆる認知症の気配の方、マタニティー・子育て渦中のヤングママやベビー、などなど。小さな教会の十字架のもとでこちょこちょと大賑わいです。地域の皆さんの見守りの場でもあり、お顔がない方の様子を見に行ったり、ランチを届けることもしています。地元のNPO介護施設と連携し、心配な方がたを知らせ合ったりしています。

この地域には高齢者に便の良い商店があまりありません。そこで、ミニショップを用意しました。地域の乾物屋(干物、佃煮など)、趣味の菜園家、豆腐屋(豆腐、おあげなど)

から毎回少しづつ届けられます。これをあてにしている方も少なくありません。出店者さんは売り上げからサロンの運営費を寄付して下さい

前島 百人規模の大きな教会ではかえってみ言葉の礼拝は向かないかもしれませんが、緊密な関係の小さな教会だからこそ思い切ったことも出来るような気がします。

飯塚 最近は合同礼拝も増えていますが、大きな教会でみ言葉の礼拝をするところもあります。どうなるかが楽しみですね。

太田 ただどのような礼拝であってもネガティブに考えないことです。

渡辺 み言葉の礼拝は、出だしは聖職者不足というマイナス面から始まりましたが、そこをマイナスと考えずに逆に信徒が成長するチャンスととらえるといいですね。

太田 何でも司祭に頼っていないで、信徒がやらなくてはいいけません。

山本 うちではこの数か月み言葉の礼拝が無かったのでよかったと思っていたのですが、また始まるので、今度は、前とは違う新しいみ言葉の礼拝なんだというつもりでやってみます。

前島 それはいいですね。

飯塚 諸聖徒教会では今度初めてみ言葉の礼拝をされるそうですが、何をされるのですか？

宮崎 とりあえず初めてなので司祭の原稿を読む勧話と、ハーブ演奏と黙想をします。

ただ、私が聖餐式でなければいけない

います。

ここに集う方がたから生まれた様々な企画がありますので紹介します。

「うた」えサロン」、ギター・ピアノ・歌唱リードのボランティアの皆さんと懐かしい歌を弾きみます。

「手作り雑巾」、使用済みタオルで使い捨て雑巾を手縫いしていただき、近くの介護施設に届けています。

「和菓子作り」、和菓子屋さんのご好意で桜餅や栗きんとんなど季節の和菓子の手作りパーティー。

『文集・ふりかえれば』の発行」、皆さんにとって忘れられない人生の「一コマ」を寄せていただき、体験を共有しています。

「東北支援」、2011年春、サロン利用の皆さんからの「私たちの小さな寄付を目に見えるところへ」との強い願いを民謡・三味線のプロアーティストが受け止めて下さり、9回にわたり聖公会「いっしょに歩こう」の新都町センターや仮設の皆さんに演奏を届けることができました。

「生活に語りかける宗教」、聖公会の司祭と大谷派の僧侶、それぞれのやさしいお話の会。

「まなびやヨハネ」、サロンのある日、地域の方のお話から身近にある「貧困」に気づかされ、放課後放置されていたその1年生1人を迎えて無料の学習サポート室をスタートしました。社会的なハン

と思うのは、昔、脇を支えられながらやつの思いで教会に来られたおばあさんが泣きながら陪餐を受けられて、その後すぐに亡くなったということがあったからです。その時サーバーをしていたのですが、それほど大きなことに関わっているんだという思いを強く持ちました。

太田 み言葉の礼拝の後はその日の様子を聖職者にきちんと伝え、訪問をお願いするとかのフォローも信徒の務めですね。
渡辺 確かに牧師にしか出来ない働きがあるので、牧師がそれに専念できるように体制づくりは必要です。

それでは最後に一言ずつお願いします。
飯塚 み言葉の礼拝について、聖職者も信徒にお任せするのではなく実際に参加してアドバイスやフォローがあるといいなあと 생각합니다。信徒が具体的に何を困っているかなどを感じて欲しいです。

平松 聖書を自分で読んだことがないという信徒がいたので、これを機会に聖書の学びもしないと表面的なもので終わってしまふような気がします。

山本 今日の座談会から鱗が落ちました。次のみ言葉の礼拝の日に、教会の皆さんにこの座談会のことを話すが楽しみです。

渡辺 そういう前向きな気持ちになられたならこの座談会の意味があったと思います。今日はどうも有り難うございました。

ディーを負う小学生の居場所になっています。これは行政の目に留まり助成金を受けられています。

そのほかに「切手整理」「ミニシアター」などもしています。
名古屋聖ヨハネ教会は間もなく60年を迎えます。主日に人が溢れるような時代もありましたが90年代から信徒は減り始め、現在主日礼拝出席者は多くて10名くらい。この20年ほどは定住聖職が与えられず、平日は無人に近い状態で教会の扉は長く閉じられがちでした。

いつの間にか私たちの姿勢は内向きになり、この「在」(地元)に遣わされている意味を見失いかけていました。「教勢・財政」が重くのしかかり「教会の存続策」それ自体が目的になってしまっていました。ようやく2000年過ぎたころ、「在」に徹する姿勢が定まったように思います。中部教区に培われてきた学生センター方式や大韓聖公会の学びなど、その宣教姿勢の反映でしょうか。この教会は消えそうに小さくなって、そして解放されたように感じます。さまざまな課題を抱えながらも今、とても賑やかです。気づいてみたら地元の皆さんに支えられているではありませんか。教会は「信徒」のものではなく、「在」の皆さんのものになりつつあります。



私たちの教会 [3 2]

ようこそ渋谷聖公会聖ミカエル教会へ



当教会の牧師を務めておられた李 民洙司祭が2010年に牧会の現場を離れて以来、当教会には定住の教役者がいないという状況が続いております。現在聖職者が減少し、教区内あちこちの教会が直面することになった状況を先取りした形でした。この状態となった当初、教会活動のすべてを聖職者に依存してきた当教会は突如、教会が機能不全の状態となりました。教会委員たちが協議し、週報の作成、礼拝の準備、高齢者、病者等信徒の状況把握を誰がどのように担当するか、教会暦に沿った礼拝や行事案内、教会事務をどうしてゆくか、態勢の整備に迫られました。

実際に、活動を見直してみますと、サクラメントの執行や祝福、牧会等、聖職でなければできない働きもあるのですが、私たちが従来、聖職に依存してきた事柄の多くは信徒でも担うこ

とが可能なものであることに気付かされました。教会の働き、宣教は聖職者だけが担うものではなく、信徒にできることは信徒が担う。これが徹底できれば、今の教区の状態でも決して教会



活動が停滞することはないと思えるようになりました。今教会に必要なことは、教会の働き人を育てることであると認識し、当教会では模索しながらヒルダ・ミッシェル宣教を展開しております。その内容は3つの柱

定住の教役者がいなくなった当初、礼拝準備を信徒に依頼しようとした時、5・6年前までは、元気に活躍してくださっていたオクター・ギルドのメンバーが高齢化して働けない状態となったことに気付かされたのですが、それ以来、信徒が積極的に働くようになって、いつの間にか若い人が増えて、これを担ってくださっており、また、毎主日の愛餐会も準備を担当してくれる方ができ、豊かな食事を共にするという喜ばしい、現象がみられるようになっていきます。

(山田 益男)

《信徒リレーエッセイ》
皆がともにいるチャペル
立教学院諸聖徒礼拝堂
森田 智子

立教学院のチャペルは池袋と新座の2箇所にあります。特徴は、学生・生徒と会衆が共存していることだと思えます。チャペルを拠点として活動している大学のチャペル団体の学生は250名ほどいて、その活動は礼拝奉仕、学内外での奉仕、子どもたちとの交わりなど様々です。イースターなどの大礼拝では、アコライトを始め聖歌隊やハンドベルなど礼拝奉仕をする学生たちは熱心に練習して臨みますが、当日はその想いが一つの折りとなり、とても感動します。

チャペル事務室の職員として思うのは、学生の中には洗礼を受けていない人も多くいますが、チャペレンや音楽の指導者・オルガニスト、そして会衆に見守られながらチャペルを居場所としてそこに居て、「皆がともにいて祈る」という空間が自然に在るということです。そして、私もその中の一人として居られることを幸せに思います。

シリーズ 宣教への取り組み⑦

英国聖公会の宣教、最近の歩み その4

司祭 塚田 重太郎



前回、デイヴィド・ボッシュの『宣教の革新—宣教神学におけるパラダイムシフト』を通して、「バルト神学に根ざした三位一体論的宣教論」として普遍化された「ミッシェル・デイ」／「神の宣教」は、カール・バルトのキリスト中心的神学と、それに基づく神の宣教としての教会に対抗するために、反キリスト中心的・反教會的宣教論として生み出されたことをお話ししました。この「新しい宣教論」の「神学的土台」はリチャード・ニーバーの「三位一体主義」でしたが、ニーバーの「三位一体論」は「父だけが神である」、「子だけが神である」、「聖霊だけが神である」と主張する三つの「単位論的異端」をその下に収める包括的傘に過ぎず、三位一体を神の存在そのものとして理解する正統神学の三位一体論と全く異なるものでした。

ここで注意すべきことは、「神の宣教」／ミッシェル・デイは「三位一体」、「三位一体論的」といった伝統的神学用語で飾られているものの、本来の正統の意味は全く保たれていないということです。つまり、「神の宣教」の中で用いられている神学用語には、劇的歪曲が加えられているのです。言葉を変えれば、それは「正統的」うわべを保っている、正統の意味を全く欠いているということです。

ミッシェル・デイにはいかなる神学的実体も無いが故に可塑的であり、無制限の意味の拡張を許容することができま

す。この特性の故に、ミッシェル・デイ／「神の宣教」は、あらゆる立場の者に受け入れられ得る、「もつとも包括的(inclusive)な宣教論」ということになりました。ミッシェル・デイのこの特性を理解できれば、なぜ「神の宣教」が完全に世俗化され、教会なき宣教論、さらにはキリスト無き宣教論となり得たのかが分かります。

例えば、ハーヴィー・コックスは、神は、革命、暴動、侵略、敗北といった「政治的出来事」の中で働いていると主張しました。彼によれば、神は(世俗)政治の世界にいたのであって、教会にいないのでありません。ホーケンダイクによれば、「世界の構造はすでにクリスチャンとなった」のであり、「和解の成就是歴史の中で手の届くものであり、世俗化と人道化と都市化の力において明らか」だということになります。

和解が歴史的發展によって成就されるのであれば、「世」と「教会」との存在論的差異は無く、「宣教」(福音を宣べ伝えること)は無意味となります。それ故、シェーラーが宣言しているように、「神の宣教」のためには、教会が無くては、ならん差し支えないのです。

さらに、「神の宣教」にとっ

ては、教会ばかりか、イエス・キリストも余計なものとなり得ます。ヨハネス・アガルドが指摘するように、ミッシェル・デイには、何が「神の宣教か」を判断する基準というものはどこにも存在しません。そのため、人間のすることはすべて、無条件に、「歴史における神の宣教」となります。

こうして、ありとあらゆる世俗的出来事は、「神の宣教」の現れとして神的承認を得るのです。すなわち、ナチズムも、ホロコーストも、大東亜共栄圏も、原爆も、共産主義革命も、実存主義も、クメール・ルージュも、「性の解放」も、サイコ・セラピーも、公民権運動も、東欧の共産主義体制の崩壊も、アメリカ主導のイラク侵攻も、アラブの春も、シリアの紛争も、アル・カイダーも、ISISも、すべては「神の宣教」／ミッシェル・デイなのです。

キリスト教信仰と無関係に、いかなる立場の者であっても、その者が「革命的」、あるいは「解放的」とみなす

もののすべてを「神の宣教」と同一視できるようにするために、バルトのキリスト中心的神学は「異端的」として拒否され、ニーバーの「包括的機能としての三位一体主義」がミッシェル・デイ／「神の宣教」の「神学的土台」として据えられました。「神の宣教」は、その初めから、スピノザ的あるいはヘーゲル的汎神論であったとしても、クリスチャンではなかったのです。

教会の衰退と崩壊を諷する「宣教の神学」を掲げる教会が消滅するのは当然の「神学的帰結」であり、これを教会に忍び込ませ、宣教方針に据えた者たちにとって、教会の死はむしろ喜ぶべきことであり、祝うべきことであって、嘆くべきことでも、悲しむべきことでもありません。

しかし私は古いキリスト教に属し、教会が神の宣教であることを知っているが故に、教会の安楽死を嘆き、悲しんでいるのです。

(聖マーガレット教会牧師)

知里 幸恵とわたし

舞 香

私は2009年から知里幸恵さんの生涯を描いた一人芝居「神々の謡」を演じています。



の事も、アイヌ民族の事も、何も知りませんでした。

知里幸恵さんは、1903年に北海道の地に誕生したアイヌの少女です。お母さんと育ての母である叔母は共に、英国宣教師バチエラー氏（聖公会）のもとで学んだキリスト者でした。

幸恵さんも幼いころからその教えを受け育ちました。アイヌ語と日本語に長けた幸恵さんは、アイヌ語学者の金田一京助にその才能を認められました。しかし生まれつき身体の弱かった幸恵さんは、「アイヌ神謡集」という1冊の本を出版するため

に上京し、19歳という若さで亡くなってしまう。それは「アイヌ神謡集」の原稿の校正を終えたその日の夜の事、まるでドラマのような生涯でした。

私が幸恵さんに出会ったのは2008年。きっかけはアンケートに書かれた「今度は知里幸恵さんを演じてみては」という言葉でした。

東京で育った私は、幸恵さん

りませんでした。

調べ始めると、その魅力にぐいぐい引き込まれて行きました。しかしそれと同時に、何も知らなかった自分への罪悪感、アイヌに何の縁もない自分が演じていいのだろうかという大きな壁にぶつかり、脚本が書けずに悩んでいました。

しかし、多くの人々と出逢い「あなたの思うように演じなさい」と背中を押してもらい、こんな私だからこそ描ける幸恵さんがいると思えるようになり無事作品が完成しました。一度きりの上演だと思っていたのですが、ありがたいことにこうして毎年途切れることなく各地で演じさせていただいております。

幸恵さんは普遍的な方で、世界中の人にとって何かを感じ、考えさせてくれる存在です。

演じるごとに、幸恵さんの存在を、想いを、言葉を伝えていかなくてはという想いが強く

なっています。

滅びゆくものと言われてきたアイヌ民族。誇りを守る為、幸恵さんはその小さな身体に大きな使命を背負い、私たちに「アイヌ神謡集」という宝物を残しました。平成20年にやっと日本の国はアイヌ民族を先住民族と認めました。幸恵さんが亡くなって96年。序文の中で「敗残の醜をさらしている今の私たちの中からも、いつかは、二人三人でも強いものが出て来たら、進みゆく世と歩みをならべる日もいつかはきましよう」と祈った幸恵さんの願いが徐々に叶おうとしています。昨年は小学館学習まんが人物館から「知里幸恵とアイヌ」が出版されました。「アイヌ神謡集」と共に読んでいただけたら嬉しいです。そして願わくばいつか私の演じる「神々の謡」を観劇いただけたら幸いです。一人でも多くの方が幸恵さんと出逢い、みなさんの心にその想いが届きますように。（一人芝居「神々の謡」は葛飾茨十字教会で、大斎節での学習の一環として3月11日に演じられた。）



イギリスのキリスト教指導者、空爆直後にシリヤ訪問（英国国教会）

前エクセター主教マイケル・ラングリッシュ及び国教会司祭アンドリュー・アシュダウンを含むキリスト教指導者及び複数の貴族からなるグループがダマスコを訪問し、シリア人民会議議長ハモウダ・ユセフ・サバ、議員及び大ムフティに面会した。ジャイルズ・フレイザー司

次回夏号

7月22日発行予定

祭「オーマヤド・モスクにおいて愛がいかにミサイルより強いか話し合った」。シリヤにおけるクリスチャンの窮状打開を意図した訪問だが、アサド体制に対する宥和を印象づけるとして批判されている。シリヤの正教派（ギリシャ正教会、シリア正教会、メルカイト東方カトリック教会）はアサド政権を支持している。（4月16日）

ちょっと聖書、ときどきユーモア（三十七）

1. 親の願い

牧師「私の親は、牧師が音楽家になるのを望んでいました」
信徒「それでは、あなたは親の願いを叶えるために牧師になったというのですか」

牧師「いや、音楽家になる才能がなかったからです」

2. ボクシングとは

牧師A「Bさん、たまにはボクシングしに行かない？」

牧師B「いいね、行こうか」

信徒「先生、なんでボクシングなんかするんですか」

牧師A「ははは、ボクシングというのは私たちがカラオケに行くことだよ」

信徒「どうしてカラオケがボクシングなんですか」

牧師B「牧師が歌うからさ」

3. み心が足りない

信徒A「主教選挙は神さまのみ心で決まるんだよね」

信徒B「そうなんだけど、み心が足りないんじゃないかと思うんだ」

信徒A「えっ、どういうこと？」

信徒B「み心より1つ少ない“二心（ふたごころ）”だと決まらないんだよ」